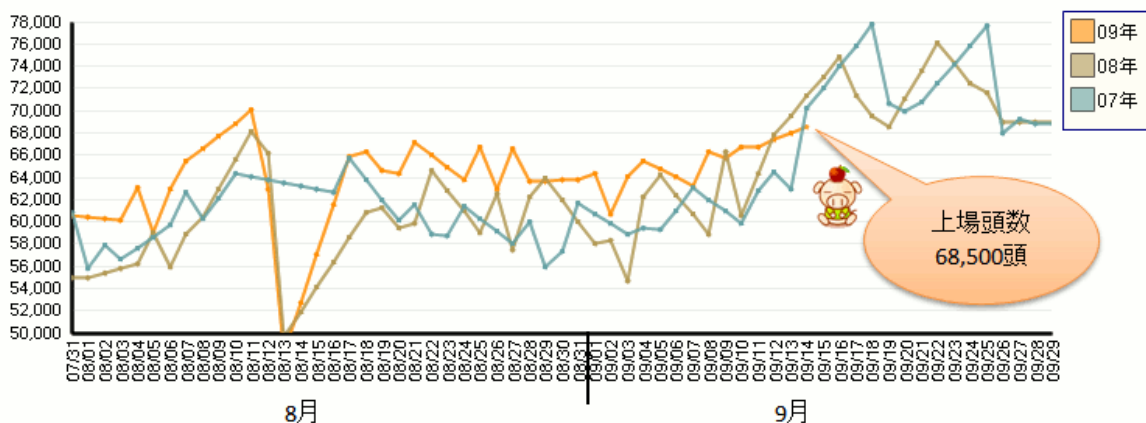
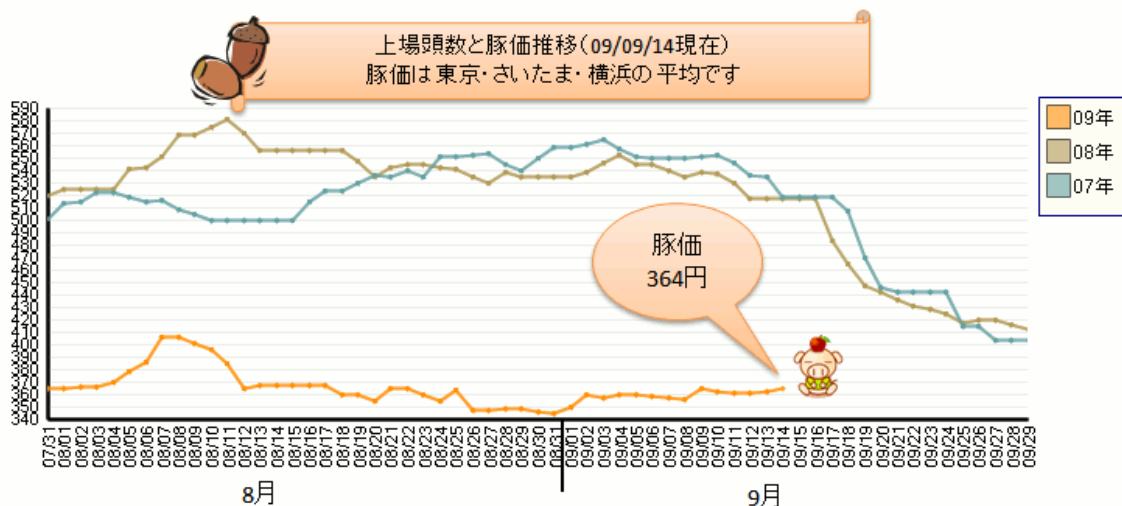


最近の国内外の景気情勢について ～国内の今後の見通しとアメリカの苦悩～

ごく最近の豚価の状況と毎日の上場頭数をお知らせします。

大変厳しい状況がつづいており、特に8月以降の豚価は枝肉単価で一時昨対200円も下がり今後が大変心配されます。したがって経営を安定させるにも、生産コストを下げる努力をしつつも、餌代金等の資金繰りには最も気を配らなければなりません。金融機関への働きかけや調整には十分に対処していただきたいと思います。



毎日の上場頭数でも軒並み昨年を上回っています。当然と畜日数との関連で変わりますので月集計で見ると大きな増加にはなっていないというのが国の集計ですが、豚の流通が少しずつも増えていることだけは確かです。これから秋冬に向けて豚が最も増える時に重なり流通量が豚価に影響することも心配になります。最近輸入肉が敬遠され、国産豚肉需要の高まりが見られていることが畜産日報(9月11日発行)などで報じられているのは好材料かもしれません。

アメリカでは、NPPC(全米養豚生産者協会)としても政府の豚肉買い上げ要請を行い、大手パッカー生産者を中心に自ら流通量の調整をしながら豚価の回復を願っているニュースも流れています。

国内の消費動向については、依然としてメディアが新型インフルエンザを豚インフルエンザとして報道を続けているものの消費動向には影響なさそうだと考えられています。しかし内心は政府機関から様々なところへ新型インフルの感染と豚肉の関係を否定するお知らせを流しており、それを見るとかなりの苦悩が滲み出ています。このお知らせは英語だけでなくスペイン語でも書かれてあり、メキシコ系の人たちにも啓蒙しようと心掛けているようです。

ただし、中国の輸入停止は今のところ再開する気配もありません。実はアメリカが最も懸念しているのがこの点です。政治的な関与が少なからずあるのでしょうか、なかなか修復のきっかけが掴めない状態です。これについて、中国国民への教育や啓蒙が不足しているからだと関係者はコメントしています。

“You should know that you can not get H1N1flu from eating pork. Pork products are perfectly safe”

(豚肉を食べても新型インフルエンザには感染しません。豚肉、豚肉製品は完全に安全です)

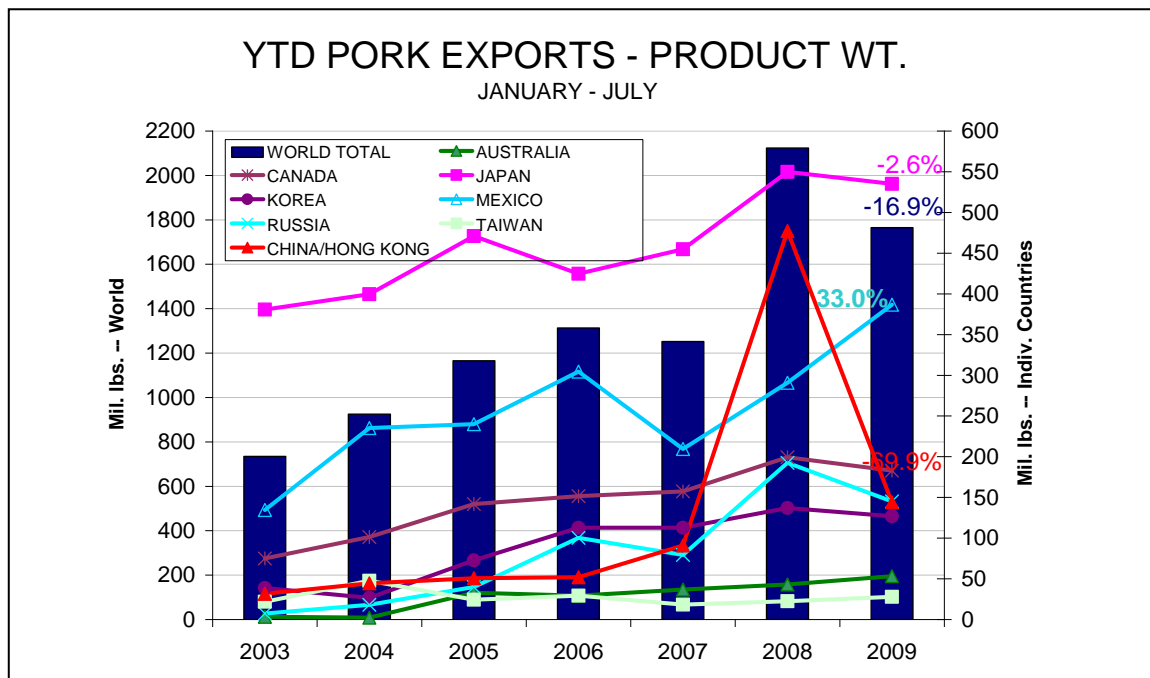
～政府からの関係業者への案内通知～

こんなFAXがアメリカの器材メーカーからグローバルピッグファームへも送られてくる始末です。

世界の豚肉総輸入と主な輸入国の年次前半の推移（2003年から2009年）

- * 青い棒グラフが世界の総豚肉輸入量を示しています(左の目盛)。
- * 世界景気の影響でしょうか、昨対で17%弱の減少を示しています。
- * 中国が特に激減していますが、日本(JAPAN)韓国、ロシアなども昨対で減少しています。中国とロシアは共にインフルエンザの関連でアメリカからの輸入を控えています。おそらく景気とも関係しているのでしょうか。
- * 中国は2008年度が異常な輸入景気だったようで、特に極だった結果になっています。

(National Hog Farmer e-news, 9月14日)



2009年10月 グローバルピッグファーム(株)